# 佐渡米通信

# こめ～る

2025年 4 月号

発行日:2025年4月
発行：佐渡農業協同組合　担当：総務部企画総務課　駒形(葵)
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

## 令和7年度佐渡米生産者大会の開催

2月下旬に令和7年度の佐渡米生産者大会が開催されました。今大会では、「限りある用水を有効活用し、気象変動に負けない佐渡米生産」というテーマのもと、関係機関の方たちからの説明がありました。新潟県の担当者の方からは高温耐性新品種の開発・導入について報告がありました。秋田県立大学金田名誉教授からは土作りについて秋田県での事例をもとに講演が行われました。土の粒度と水分の関係が根を活かす圃場管理・栽培管理において重要であることが説明されました。大会は会場での出席者の他、JA佐渡管内各拠点からもオンラインで多くの生産者が参加しました。JA佐渡では生産者の方々にとって有益となる情報発信の場を設け、佐渡米の収量・品質の向上に役立てて頂けるよう取り組んで参ります。

土作りについて説明する秋田県立大学金田名誉教授

## 佐渡の米農家さんにインタビュー

令和6年に開催した第4回「おいしい佐渡米コンテスト」で最優秀賞を受賞した丹下高晴さんにインタビューさせて頂きました。丹下さんは自営農業と地域農地の維持のために12年前に脱サラし、集落の方と3人で農事組合法人水渡田ライスファームを立ち上げ、コシヒカリ等の水稲を中心に約30ha耕作しています。その他に個人として3.6haの田んぼを作られています。今回受賞したお米は衛星画像によるAI栽培管理システムの試験圃場として、JA佐渡が丹下さんに依頼して管理して頂き収穫されたものです。栽培管理システムと連動が可能なGPS搭載の田植え機はAIの提案する通りに施肥量を変えることが出来ます。同じ田んぼの中であっても場所によっては10kg以上も差があったことに驚いたと話されていました。例年よりもくず米が少なく、色彩選別機の選下が通常の1/3位だったため機械が壊れたのかと不安になったそうです。お米のハリも良く期待を込めてコンテストに出品をして下さったそうです。

今年はお米の買取価格が上向いたため法人の経営も改善してきていることを伺いました。これまで作り続けることが出来たのは、代表を務める丹下さんらの労働力を未来への投資としてお金を回してきた背景があることを忘れてはいけないと感じました。

今後は年間雇用の安定化のために作業内容の見直しや作物の選定を再検討し、次の世代に引き継いでもらえる取り組みをすすめていきたいそうです。

佐渡米コンテストで最優秀賞を受賞した丹下さん

農事組合法人水渡田ライスファームの皆さんで育苗のためのビニールハウスの建替えの様子

金井地区

## 気象変動に負けない本田準備

根張りの良い
イネ作りの土台と
なる土作り

畦塗りの様子

春耕転を終えた田んぼ

温湯消毒 | 春耕転 | 苗づくり | 田植え | 水管理 | 中干し | 穂肥 | 稲刈り | 秋耕転 | ふゆみずたんぼ

facebook

instagram JASADOTANBO